

事業報告書

(平成28年度)

学校法人 智香寺学園

目 次

1. 法人の概要

(1) 設置している学校・学部・学科等	1
(2) 各学校・学部・学科等の入学者数・在籍者数の状況	1
(3) 役員・教職員概要	2
① 役員	
② 教員	
③ 職員	

2. 事業の概要

(1) 平成28年度事業の概要・実施状況	3
大学部門	
① ものづくり研究センター落慶式	
② 大学創立40周年記念式典・祝賀会	
③ がんばる！学生プロジェクト活動報告	
④ 研究計画の進捗状況	
⑤ 科学研究費・その他の補助金助成事業	
⑥ 地域交流計画の実施状況	
⑦ 主な施設設備計画の実施状況	
⑧ 就職事業状況	
高校部門	15
① 平成28年度卒業生進路について	
② クラブ活動実績について	
③ 平成29年度高校入試結果について	
④ 財政の健全化	

3. 財務の状況

(1) 概況	18
(2) 事業活動収支の状況	18
(3) 資産負債の状況	19
(4) 連続貸借対照表の状況	20

1. 法人の概要

(1) 設置している学校・学部・学科等

(平成28年5月1日現在)

学校名	学部・学科・課程名	開設年度	入学定員 募集定員	編入学定員	収容定員 学則定員
埼玉工業大学	大学院工学研究科 (博士前期課程) システム工学専攻	平成10年4月	6		12
	電子工学専攻	平成19年4月	7		14
	応用化学専攻 (博士後期課程)	平成19年4月	7		14
	システム工学専攻	平成12年4月	2		6
	電子工学専攻	平成22年4月	2		6
	応用化学専攻	平成22年4月	2		6
	大学院人間社会研究科 (修士課程) 情報社会学専攻	平成18年4月	10		20
	心理学専攻	平成18年4月	15		30
	大学院小計		51		108
	工学部				
	機械工学科	昭和51年4月	115		450
	生命環境化学科	平成19年4月	110		420
	情報システム学科	平成19年4月	135		530
	工学部小計		360		1,400
人間社会学部					
情報社会学科	平成14年4月	90		380	
心理学科	平成14年4月	50		220	
人間社会学部小計		140		600	
大学合計		551		2,108	
正智深谷高等学校 全日制課程 普通科	昭和32年4月	400		1,200	
高校合計		400		1,200	
法人合計		951		3,308	

(2) 各学校・学部・学科等の入学者数・在籍者数の状況

(平成28年5月1日現在)

学校名	学部・学科・課程名	入学定員 募集定員	入学者数	編入学者数	在籍者数
埼玉工業大学	大学院工学研究科 (博士前期課程) システム工学専攻	6	6		16
	電子工学専攻	7	4		10
	応用化学専攻 (博士後期課程)	7	12		19
	システム工学専攻	2	1		5
	電子工学専攻	2	7		16
	応用化学専攻	2	0		4
	大学院人間社会研究科 (修士課程) 情報社会学専攻	10	1		3
	心理学専攻	15	7		13
	大学院小計	51	38		86
	工学部				
	機械工学科	115	118		487
	生命環境化学科	110	79		476
	情報システム学科	135	163		670
	工学部小計	360	360		1,633
人間社会学部					
情報社会学科	90	69		321	
心理学科	50	46		217	
人間社会学部小計	140	115		538	
大学合計	551	513		2,257	
正智深谷高等学校 全日制課程 普通科	400	456		1,116	
高校合計	400	456		1,116	
法人合計	951	969		3,373	

(3) 役員・教職員概要

① 役員

(平成28年5月1日現在)

理事・監事 の区別	職名又は担当職務	氏名	就任年月日
理事 (常勤)	学長	内山俊一	平成23年4月
理事 (非常勤)		浅野義光	平成27年9月
理事 (非常勤)	財務担当	宇都宮孝和	平成19年4月
理事 (常勤)	理事長	松川聖業	平成11年5月
理事 (非常勤)	教育研究担当	佐藤良純	昭和52年7月
理事 (常勤)	学校長	加藤慎也	平成28年4月
理事 (非常勤)		神居文彰	平成19年4月
理事 (非常勤)	財務担当	三輪行雄	平成19年4月
理事 (非常勤)		馬岡清人	平成23年4月
理事 (非常勤)		緒方延泰	平成19年7月
理事 (非常勤)		宇高良哲	平成22年7月
監事 (非常勤)		今岡達雄	平成19年7月
監事 (非常勤)		新谷仁海	平成19年7月

② 教員

()内は兼担を示す

部 門	専任教員	兼務教員	合 計
大学院	(58)		(58)
先端科学研究所	2(18)		2(20)
工学部	49	98	147
人間社会学部	22	57	79
大学計	73	155	228
正智深谷高校	56	37	93

③ 職員

部 門	専任職員	兼務職員	合 計
法人部門	5		5
大学部門	59		59
高校部門	9		9
合 計	73		73

2. 事業の概要

(1) 平成 28 年度事業の概要・実施状況

大学部門

- ① 新施設「ものづくり研究センター」の落慶식을 7 月 19 日（火）に挙行了しました。

多くの皆様から学園創立 110 周年記念事業募金へのご支援を賜り、新棟を建築することが出来ました。世界へ向けて最新技術を発信できる場になるよう、教育・研究に更に邁進していききたいと思います。



落慶式（平成 28 年 7 月 19 日）

- ② 埼玉工業大学は、昭和 51 年（1976 年）に聖橋工業高等専門学校を前身として開学し、平成 28 年 1 月 10 日に創立 40 周年を迎えました。これを記念し、同年 12 月 10 日（土）に大学の体育館（大乘殿）と、ものづくり研究センターにおいて記念式典・祝賀会を来賓、学校関係者約 400 名の出席のもと盛大に挙行了しました。

記念式典では、浄土宗の僧侶による記念法要の後、学校法人智香寺学園 松川 聖業理事長の挨拶をはじめ、深谷市長 小島 進 様、浄土宗宗務総長 豊岡 鎌尔 様、遼寧科技大学学長 孫 秋 柏 様、埼玉大学学長 山口 宏樹 様よりご祝辞を賜りました。その後、大学の将来計画（中長期ビジョン 2016-2020）について、内山 俊一 学長より発表が行われました。当日の様子、将来計画については、フジサンケイビジネスアイでも特集されました。



創立 40 周年記念式典・祝賀会（平成 28 年 12 月 10 日）

埼玉工業大学 創立40周年を記念 変革に挑む 「将来ビジョン」策定し新たな方向性



「ものづくり研究センター」を拠点に 自然エネルギー開発で社会に貢献

「ものづくり研究センター」は、理工学部の研究開発拠点として、2023年10月に完成した。このセンターは、自然エネルギーの開発と社会への貢献を目的として、最新の設備と人材を擁する。また、社会と連携して研究開発を進め、持続可能な社会の実現に貢献する。

新しいことを求め続ける視座で 福川理事長

福川理事長は、大学の発展と社会への貢献を常に目指している。新しいことを求め続ける視座で、大学の研究開発を推進し、社会と連携して研究開発を進め、持続可能な社会の実現に貢献する。

オリジナル技術で企業とは違う貢献 内山学長

内山学長は、大学の研究開発が企業とは異なる貢献をできることを目指している。オリジナル技術を開発し、社会と連携して研究開発を進め、持続可能な社会の実現に貢献する。



大学本部研究開発センターが完成した「ものづくり研究センター」



長寿命で高い安全性 レドックスフロー電池



「ものづくり研究センター」は、理工学部の研究開発拠点として、2023年10月に完成した。このセンターは、自然エネルギーの開発と社会への貢献を目的として、最新の設備と人材を擁する。

4本の樹状柱が互いに支え合い大樹に

「ものづくり研究センター」は、理工学部の研究開発拠点として、2023年10月に完成した。このセンターは、自然エネルギーの開発と社会への貢献を目的として、最新の設備と人材を擁する。

次世代自動車プロジェクトも始動

「ものづくり研究センター」は、理工学部の研究開発拠点として、2023年10月に完成した。このセンターは、自然エネルギーの開発と社会への貢献を目的として、最新の設備と人材を擁する。



フジサンケイビジネスアイ (平成 28 年 12 月 20 日) 掲載

③ がんばる！学生プロジェクトの推進
目的：学生の自主性・創造性の向上と、学生相互の交流の活性化
(平成 28 年度は次のプロジェクトが様々な活動を行いました。)

- (1) SAIKO 学生フォーミュラプロジェクト
- (2) SAIKO Aquarium Project
- (3) 集まれ科学実験教室プロジェクト
- (4) 米と日本酒 (米作り、そして日本酒へ) プロジェクト
- (5) OKABE 光の回廊プロジェクト
- (6) 自然環境保護プロジェクト
- (7) SAIKO EV Project
- (8) ロボコンチャレンジプロジェクト
- (9) SAIKO Advertorial Project
- (10) SAIKO ブランド農産品開発プロジェクト

【注目された主なプロジェクト】

*米と日本酒 (米作り、そして日本酒へ) プロジェクト

平成 28 年 11 月 5 日・6 日に、深谷市産業祭のイベントのひとつ『FUKAYA SAKE Collection』にプロジェクトメンバー7名が参加し、深谷名醸会 (丸山酒造、滝澤酒造、藤橋藤三郎商店) とともに、瞬喜道を含む深谷の地酒 4 種の飲み比べ、販売の運営を実施しました。またこの取り組みは 10 月 27 日に深谷市役所において記者会見も行われました。



深谷市役所記者会見風景 (平成 28 年 10 月 27 日)

*SAIKO Aquarium Project

平成 28 年 11 月 12 日・13 日に、渋沢栄一 生家「中の家」にて、“2016 ふかやスタンプラリー～渋沢栄一ゆかりの地をめぐる～”の一環として水槽の展示を行いました。今回の取り組みは、プロジェクトにとって初めてとなる学外イベントでしたが、大勢の方に興味をもっていただきました。



2016 ふかやスタンプラリー～渋沢栄一ゆかりの地をめぐる～（平成 28 年 11 月 12 日・13 日）

*OKABE 光の回廊プロジェクト

おかべ希望が岡公園のイルミネーションは 7 周年を迎えました。

平成 28 年 12 月 2 日に実施した点灯式では、岡部中学校吹奏楽部による演奏や深谷市長をはじめとする来賓の皆様にご挨拶をいただきました。今回のイルミネーションでは、合わせ鏡の原理を利用した奥行きのある電飾や、光のトンネルの構造と配色変更を行いました。なお、当日の様子が毎日新聞と読売新聞、そして Signs & Displays 1 月号の特集ページにそれぞれ掲載されました。

また、12 月 20 日には学内点灯式も実施され、大学創立 40 周年をデザインしたイルミネーションが設置されました。



「第 7 回イルミネーション」点灯式



「埼玉工業大学イルミネーション 2015」点灯式



「大学創立 40 周年デザインのイルミネーション」



「Signs & Displays 1 月号」

④ 研究計画の進捗状況

- ・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（文部科学省：最終年度）

研究期間 平成 23 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

研究課題 機能的ナノ材料による新規な表面・バイオセンシング技術の創出

研究費 23,000,000 円(PD・RA 経費含む)

※平成 28 年 5 月末日に最終研究成果報告書を文部科学省に提出

⑤ 科学研究費・その他の補助金助成事業

- ・科学研究費補助金の獲得（日本学術振興会）

※平成 28 年度科学研究費獲得者

研究種目	新規 継続	所 属	代表者	28 年度 直接経費	28 年度 間接経費
基盤研究 (C)	新規	機械工学科	石原 敦	1,500,000 円	450,000 円
若手研究 (B)	新規	機械工学科	長谷 亜蘭	1,500,000 円	450,000 円
基盤研究 (C)	新規	生命環境化学科	秦田 勇二	1,500,000 円	450,000 円
基盤研究 (C)	新規	生命環境化学科	木下 基	1,100,000 円	330,000 円
若手研究 (B)	新規	生命環境化学科	松浦 宏昭	1,900,000 円	570,000 円
若手研究 (B)	新規	生命環境化学科	本郷 照久	1,500,000 円	450,000 円
基盤研究 (C)	継続	機械工学科	趙 希 禄	1,000,000 円	300,000 円
基盤研究 (C)	継続	情報システム	渡部 大志	400,000 円	120,000 円
基盤研究 (C)	継続	機械工学科	安藤 大樹	900,000 円	270,000 円
挑戦的萌芽研究	継続	先端科学研究所	内田 正哉	500,000 円	150,000 円
若手研究 (B)	継続	機械工学科	皆川 佳祐	1,500,000 円	450,000 円
若手研究 (B)	継続	生命環境化学科	秋田 祐介	1,000,000 円	300,000 円
基盤研究 (B)	継続	先端科学研究所	内田 正哉	1,500,000 円	450,000 円
基盤研究 (B)	継続	先端科学研究所	丹羽 修	3,000,000 円	900,000 円
基盤研究 (C)	継続	情報システム	山崎 隆治	600,000 円	180,000 円
基盤研究 (C)	新規	情報社会学科	田中 克明	1,000,000 円	300,000 円
基盤研究 (C)	継続	情報社会学科	佐藤 由美	600,000 円	180,000 円
基盤研究 (C)	継続	心理学科	友田 貴子	600,000 円	180,000 円
若手研究 (B)	継続	機械工学科	小坂 丈敏	1,300,000 円	390,000 円
計			19 件	22,900,000 円	6,870,000 円

- ・平成 28 年度中小企業経営支援等対策費補助金

(戦略的基盤技術高度化支援事業（関東経済産業局）)

(1) 事業名：「高効率成型システムを有する複合材向けオートクレーブの研究開発」

研究者：工学部生命環境化学科 矢嶋龍彦教授

補助対象経費：1,447,851 円（内間接経費 17.7%）

※長野県テクノ財団から再委託事業

(2) 事業名：「金型・砂型の複合工法による高品質複雑形状鋳物の開発」

研究者：工学部機械工学科 福島祥夫教授

補助金交付額：216,000 円（間接経費なし）

※(株)内外からの再委託事業

・平成 28 年度「日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）

（A コース：科学技術体験コース）：国立研究開発法人科学技術振興機構

負担対象費用確定額：1,722,529 円 返還額：538,094 円

・平成 28 年度成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業

（文部科学省）

（次世代インターネットの利用環境整備に向けた産学官連携資格認定プログラム）

委託費確定額：12,142,861 円

⑥ 地域交流計画の実施状況

高等学校との教育連携について

相互の教育交流を通じ高校生の視野を広げ、進路に対する意識及び学習意欲を高めるとともに大学・高校の求める学生像・生徒像及び教育内容への理解を深め、かつ、大学教育、高校教育の活性化を図るために教育協定を推進している。

【平成 28 年度新たに以下の 2 校と教育連携協定を締結】

① 埼玉県立狭山工業高等学校 ② 栃木県立宇都宮工業高等学校

※今後も周辺高等学校を中心に連携を推進中

【平成 28 年度までの教育連携協定校 33 校】

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1. 智香寺学園正智深谷高等学校 | 1 8. 株式会社立日々輝学園高等学校 |
| 2. 埼玉県立久喜工業高等学校 | 1 9. 埼玉県立進修館高等学校 |
| 3. 埼玉県立深谷商業高等学校 | 2 0. 群馬県立太田工業高等学校 |
| 4. 埼玉県立熊谷工業高等学校 | 2 1. 埼玉県立皆野高等学校 |
| 5. 埼玉県立児玉白楊高等学校 | 2 2. 群馬県立吉井高等学校 |
| 6. 埼玉県立寄居城北高等学校 | 2 3. 埼玉県立川越工業高等学校 |
| 7. 埼玉県立深谷高等学校 | 2 4. 埼玉県立大宮工業高等学校 |
| 8. 埼玉県立深谷第一高等学校 | 2 5. 平方学園明和県央高等学校 |
| 9. 群馬県立伊勢崎工業高等学校 | 2 6. 埼玉県立川口工業高等学校 |
| 1 0. 群馬県立前橋工業高等学校 | 2 7. 埼玉県立浦和工業高等学校 |
| 1 1. 長野県坂城高等学校 | 2 8. 埼玉国際学園（日本語学校） |
| 1 2. 山梨県甲府市立甲府商科専門学校 | 2 9. 埼玉県立羽生第一高等学校 |
| 1 3. 埼玉県立秩父農工科学高等学校 | 3 0. 大妻学園大妻嵐山高等学校 |

- 1 4. 埼玉県立妻沼高等学校
- 1 5. 群馬県立高崎工業高等学校
- 1 6. 群馬県立藤岡工業高等学校
- 1 7. 群馬県立藤岡中央高等学校

- 3 1. 埼玉県立滑川総合高等学校
- 3 2. 埼玉県立狭山工業高等学校
- 3 3. 栃木県立宇都宮工業高等学校

公開講座・地域連携事業・高大連携

・公開講座・地域連携事業

講座名	テーマ	講師	参加人数
埼玉工業大学公開講座 (6月3日～6月25日)	・英語コミュニケーション講座(日常会話)	グレッグ氏	25人
	・現代の物理学講座～重力波観測へ至るまでの宇宙観測の歴史について	松田智裕 准教授	48人
	・異文化理解講座～日本統治下の台湾の子どもたち	佐藤由美 教授	42人
	・楽しい英語講座～	レメディオス氏	28人
	①楽しく英語の歌を歌いましょう	荒木慶和 講師	
	②楽しく日本文化と外国の文化の違いを英語で表現しましょう	荒木慶和 講師	86人
	・人間科学講座～脳の働きを知ってよりよく生きよう	高橋俊典 講師	97人
・気象学講座～気象予報士と学ぶ天気	井門俊治 特任客員教授	30人	
・地域連携講座～「地域情報の活用法、楽しみ方」		54人	
・科学実験体験講座～「見て体験して学ぶ!摩擦の科学」	長谷亜蘭 講師		
SAIKO フェア (10月9日)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究展示(7研究室) ・集まれ科学実験プロジェクト ・深谷商業高・寄居城北高・大宮工業高校 ・坂城高校による学習成果発表 	高坂研究室 秋田研究室 橋本研究室 前田研究室 中川研究室 吉澤研究室 田中研究室 井門俊治 特任客員教授	————
総合教育センター教育展 (集まれセンター探検隊) (10月15日)	ラズベリーパイ他	井門俊治 特任客員教授	————
埼玉県産業教育フェア (11月5日・6日)	3Dキャラクターとおしゃべり 太陽電池を作ってみよう 情報社会学科の紹介 情報社会学科の紹介 生命環境化学学科の紹介	橋本智己 准教授 石崎博基 准教授 田中克明 准教授 森沢幸博 准教授 浜名 浩 教授 秦田勇二 教授	————

・埼玉県・深谷市との連携事業

講座名	内 容	講 師	参加人数
子ども大学ふかや (7月30日～11月12日)	入学式 ①FUN with English ②「工場見学」アイスクリームができるまでのひみつ ③赤ちゃんのお世話してみよう ④どうする？どうなる？お酒のこと ⑤ポンポンを持って元気にダンス&チア！ ⑥体験しよう！ふるさとの食文化や地域の達人の技 ⑦学習成果発表 ⑧修了式	埼玉工業大学 レメディオス 氏 赤城乳業（本庄） 東都医療大学 東都医療大学 正智深谷（黒木先生） 深谷青年会議所 埼玉工業大学	45人
第2回深谷ものづくり博覧会 (3月26日)	・顔で!!イライラゲーム体験 ・動画配信技術の実演 ・特殊車両（コムス）の自動運転技術の紹介 ・大学オリジナル次世代自動車の開発紹介	鯨井研究室 前田研究室 石崎研究室 森沢研究室 鯨井研究室	——

・高大連携校との連携授業（協定校）

高校名・講座名	テーマ	講 師	参加人数
埼玉県立熊谷工業高等学校 PTA 大学見学会 (6月21日)	・大学紹介 ・施設見学		36人
埼玉県立熊谷工業高等学校 学年集会講演会 (7月8日)	人権対策講座	宮井里佳 教授	300人
群馬県立高崎工業高校 インターンシップ (7月21日～22日)	・実験実習 ・大学講義体験	松浦宏昭 准教授	2人
埼玉県立寄居城北高校 (7月25日)	C G 教室	井門俊治 特任客員教授	30人
埼玉県立深谷高等学校 (8月1日～3日)	・Web ページの作成実習 ・ネットワーク構築実習 ・Web サーバ構築実習	前田太陽 講師	20人
群馬県立前橋工業高等学校 バス見学 (9月14日)	・大学紹介 ・モノづくりのかなめ～秋の夜長にプラズマを見る ・施設見学	佐藤 進 准教授	40人

高校名・講座名	テーマ	講師	参加人数
日々輝学園高等学校 (9月16日)	・ケータイ、スマホがつながるわけ～現代の無線通信～ ・デジタル時代のモノづくり～数学を使ってプログラミングしてみよう～	松井章典 教授 伊丹史雄 講師	43人
群馬県立藤岡中央高等学校 バス見学 (10月19日)	・大学紹介 ・機械工学科紹介 ・生命環境化学科紹介 ・味覚の不思議 ミネラルフルーツ	小林 晋 教授 熊澤 隆 教授	40人
群馬県立藤岡工業高等学校 バス見学 (10月20日)	・大学紹介 ・ものづくりはロボットづくり	石原 敦 教授	44人
埼玉県立寄居城北高等学校 出前授業 (11月17日)	分子配向制御と材料機能化	木下 基 准教授	34人
埼玉県立久喜工業高等学校 バス見学 (11月29日)	・生命環境化学科紹介 ・生命環境化学科施設見学	石川正英 教授 岩崎政和 教授 有谷博文 准教授 秋田祐介 講師	40人
群馬県立高崎工業高等学校と 工業化学科との連携授業 (12月6日)	・ルミノールのマイクロ波合成と化学発光 ・顕微鏡の操作と微小生物の観察 ・他に生命環境工学科各研究室見学	浜名 浩 教授 秋田祐介 講師	40人
日々輝学園高等学校 (12月19日)	・身近に使われている情報通信テクノロジー ・ひとつの円の描画からデザインへ ＜プログラミングを体験する＞	青木泰弘 教授 関口久美子 准教授	30人
埼玉県立熊谷工業高等学校 (1月31日～2月3日)	インターンシップ職業体験	情報基盤センター ものづくりセンター 管財課	2人
群馬県立高崎工業高等学校 (1月25日)	平成28年度 学習成果発表会	井門俊治 特任客員教授	800人
埼玉県立秩父農工科学高等学校 (2月8日)	・金属の不思議と日本のものづくり技術 ・メタセコイアによる3次元CG	長谷亜欄 講師 橋本智己 准教授	78人
埼玉県立妻沼高等学校出前授業 (3月15日)	・変化する社会に対応する力 ・職業について考えてみよう ・社会を科学してみよう ・味覚の不思議 ・ロボットの最新動向 ・金属の不思議	田中正一 教授 巖岩秀章 教授 宮崎 洋 教授 熊澤 隆 教授 橋本智己 准教授 長谷亜欄 講師	――

・坂城町との連携事業

講座名	内 容	講 師	参加人数
坂城高校文化祭 (8月28日)	葛尾祭での出品・出展	教員3名 学生6名	
中学生を対象とした講座 (坂城中学) (9月16日)	機械工作 分光器の製作	佐藤 進 准教授	54人
坂城町 PR と交流の促進 (10月8日)	埼玉大秋桜祭ブース出展 特製品(りんご)販売		——
坂城高校 (10月9日)	埼玉大秋桜祭出展		20名参加
さかきふれあい大学での講座 坂城町講座 お出かけ編 (3月11日)	富岡製糸場と埼玉工業大学見学	井門俊治 特任客員教授	20人
おもしろ化学実験 (3月22日)	<ul style="list-style-type: none"> ・液体窒素の不思議 ・味の不思議を体験しよう ・見方を変えれば見えてくる「気になる光学現象」 ・電気をつくる、くだもの電池探検隊 	浜名 浩 教授 熊澤 隆 教授 木下 基 准教授 松浦宏昭 准教授	40人
坂城町との連携会議 (3月29日)	事業計画の協議、事業実績報告	井門特任教授 吉澤 教授 佐藤 准教授 石崎 准教授 山崎 准教授 古谷 准教授 木下 准教授、	——

・臨床心理センター

セミナー名	テーマ	担当	参加人数
土曜セミナー	あれから5年～東日本大震災と心理学（6月18日）	友田教授 山下 助教 佐藤	77人
	きょうだい考 映画「おとうと」を中心に～ （7月16日）	三浦和夫 教授	87人
	毒親は果たして毒なだけか（9月17日）	巖岩秀章 教授	79人
	瞑想の脳科学（10月15日）	亀谷秀樹 教授	66人
	色の心理学・色の世界（11月21日）	大塚聡子 教授	55人
	犯罪心理学（遺族）の心理について考える（12月17日）	小野広明 教授	47人
ワークショップ	心理学実験を体験してみよう（9月3日）	曾我重司 教授	10人
	箱庭療法の体験（6月2日～10月27日：全5回）	三浦和夫 教授	全5回 31人
幼児グループ	子育て支援（年25回）	友田貴子 教授 藤巻るり 講師	幼児延数 213人

⑦ 主な施設設備計画の実施状況

1号館 耐震補強工事 (建築 S51.12)	文科省 防災機能等強化緊急特別推進事業 事業経費 19,224千円 交付決定額 9,610千円 9,614千円
1号館 非常階段塗装更新工事	1,080千円
2号館 屋上防水更新工事	7,583千円
2号館 212C 研究室, 213 研究実験室改修工事 (内装・電気・給排水等)	5,761千円
2号館 213 研究実験室改修工事 (ドラフト設置・実験台等)	8,100千円
6号館 634A, B室改修工事 (間仕切り・電気等)	1,566千円
8号館 小坂研究室の学生室設置に伴う改修工事	3,321千円
12号館 大学名看板塗装更新工事	1,155千円
19号館 1915 電気工学実験実習室 (実験装置設置・電気工事)	37,557千円
22号館 2階 トイレタイル修理更新工事	3,456千円
22号館 2～4階 廊下・階段塗装更新工事	1,965千円

24号館アリーナ 天井及び軒下天井落下防止補修工事	文科省 防災機能等強化緊急特別推進事業 事業経費 50,220 千円 交付決定額 25,110 千円 25,110 千円
24号館 玄関周辺舗装改修工事	6,868 千円
26号館 2621 教室 自動暗幕カーテン回路修繕工事	1,263 千円
27号館 2736 研究実験室改修工事 (ドラフト設置・実験台等)	6,998 千円
27号館 2735,2736 室改修工事 (ドア交換・内装・電気・給排水等)	5,171 千円
29号館 3階 2938 室パーテーション工事	1,976 千円
30号館 3011, 3012 階段教室 LED 工事	2,646 千円
33号館 ものづくり研究センター新築工事 (設計含)	事業経費 754,434 千円 H27/433,232 千円 H28/321,202 千円
北門 門扉更新工事	2,894 千円

⑧ 就職事業状況

地域交流（長野県及び坂城町等）

- (1) 坂城町及び財団法人さかきテクノセンターとの連携協定に係る事業に基づき、就職活動を控えた3年生を対象に2日間企業見学を実施し、工学部を中心に学生が参加した。参加人数9月8日（15名）・9月9日（15名）
- (2) 2月の「企業研究セミナー」に、坂城町の企業4社、岡谷市3社、上田市3社、茅野・諏訪からも2社が参加した。

学生就職支援講座・ガイダンス

- (1) 公務員対策講座は、8月～9月に「筆記試験対策講座」を集中的に開講し、2月～3月上旬直前対策講座を設けた。
- (2) 1年生は、入学後に就職ガイダンスを実施すると共に、大学生基礎力レポートを受け、学生生活の充実を図り3年後の就職活動を見据えたフォローガイダンスを実施した。2年生は、就職ガイダンス、就職準備講座、インターンシップガイダンスなどを実施した。3年生は、就職ガイダンス、インターンシップガイダンス、就職活動に必要な対策講座を実施した。
- (3) 厚生労働省委託事業「大学生のための労働条件セミナー」を開催した。
- (4) 12月に大手企業を集め「業界研究セミナー」を実施した。

- (5) 3年生対象の「就職面接合宿研修」を国立女性教育会館において12月・2月開催し、延べ72名の学生が参加した。合宿に参加できなかった学生のために、「1day面接突破研修」を設け5日間実施した。延べ116名の学生が参加した。さらに、学生のニーズに応えるため新たな講座を設けた。「個別面接研修」を5日間実施、46人の学生が参加した。
- (6) 次期就職活動を見据えて、学部3年生・大学院1年生を対象とした「学内業界研究セミナー」を4日間開催し、延べ1,527名が参加した。

関東地区大学理工系就職研究会

- (1) 年間4回の研究会を開催し、各大学の取り組みや就職に関する情報交換を行った。
- (2) 10月に40周年記念式典を開催する。

各県就職情報交換会

- (1) 栃木県・茨城県・群馬県・長野県・新潟県等、各県主催の就職情報交換会に出席しU・Iターン就職希望者への情報とした。
- (2) 埼玉中小企業家同友会主催の意見交換会に参加した。
- (3) 埼玉県・群馬情報サービス産業協会主催の意見交換会に参加した。

合同就職説明会及び個別就職説明会

- (1) 未内定者を対象に学内で4月～6月、8月～12月の期間、個別説明会と一次選考を延べ100社実施した。
- (2) 8月に埼玉県大学就職問題協議会加盟17大学が主催し、埼玉県中小企業家同友会・埼玉県情報サービス産業協会・りそな銀行の関係3団体の協力を得て、17大学合同企業説明会をさいたま市のホテルブリランテ武蔵野で開催し、58社の企業が集まり、本学から37名の学生が出席した。

その他の事業

- (1) 埼玉産業労働部の補助事業として、3年生を対象に埼玉県企業（株）田島軽金属・（株）ショーワの工場見学会を行った。併せて群馬県企業（株）太平食品工業・（株）太陽誘電の工場見学も実施した。埼玉18名、群馬29名の学生が参加した。
- (2) 7月2日（土）4年生保護者向けガイダンスと個別面談を実施した。延べ95名の参加があった。
- (3) 埼玉労働局の大学ジョブサポーター常駐により、未内定者の個別対応を実施した。
- (4) 年度末には未内定者の保護者宛に学内での合同企業説明会の案内を行った。
- (5) 平成25年度より週3日キャリアカウンセラーによるカウンセリングを実施している。昨年度よりカウンセラーと就職課職員による研究室訪問も実施した。
- (6) 諏訪圏地元企業・高校教員との情報交換会を実施、併せて諏訪圏工業メッセを学生に見学させた。29名の学生が参加した。

高校部門

① 平成28年度卒業生進路について

平成28年度卒業生340名の進路状況は以下の通りとなりました。年度当初に掲げた「国公立大学30名合格」の目標は達成できなかったものの、10年ぶりに東京大学（文科Ⅲ類）に現役合格を果たせたことは、本校の教育活動ならびに進路指導の成果を証明してくれました。当該生徒は隣接する熊谷市の出身（三尻中学校）で、3年間吹奏楽部で活動してきた生徒です。在学中、予備校等へは通わず、普通の授業を中心に本校で準備した教材等に真摯に取り組んだ結果として、最難関大学への合格を手に入れました。その他の生徒も特進クラスを中心に、第一志望校合格に向けて一般入試に挑んでくれました。国公立大学の合格者数こそ前年度を下回りましたが、私立大学の合格実績は難関大学を中心に前年度を上回ることができました。

埼玉工業大学への内部進学人数については目標とする45名に届きませんでした。高大連携委員会を中心に附属大学進学の特典については十分に浸透しつつあるものの、推薦入試やAO入試を利用した都内の他大学への進学の見直し傾向もあり、近年内部進学人数の足踏みが続いています。ミオブキャンパスやPTA 大学見学会などの高大連携を更に活発にすると共に、これまでとは異なる視点からの高大連携の構築が急務であると考えます。

◆卒業生進路状況

	25年	26年	27年	28年
卒業生数	358	344	373	340
四年制大学	72.6%	79.1%	72.9%	72.6%
短期大学	1.7%	1.7%	2.9%	2.1%
専門学校	13.1%	10.8%	13.4%	11.8%
就職	8.4%	6.1%	6.2%	7.6%
進学準備	4.2%	2.3%	4.6%	5.9%

◆四年制大学

	25年	26年	27年	28年
国公立大学	13	31	32	22
私立大学	391	439	416	404
合計	404	470	448	426

◆国公立大学合格者 22 (3) 名 ※ () 内は既卒生

東京	1	福島	1	高崎経済	4
筑波	1	島根	1 (1)	群馬県立女子	1
埼玉	1	琉球	1	前橋工科	3
群馬	2 (1)	首都大学東京	1	群馬県立県民健康科学	1
山形	1	埼玉県立	1	釧路公立	1

◆私立大学合格者 225 (16) 名 ※ () 内は既卒生

埼玉工業	23	法政	26	東京農業	4
早稲田	5	成蹊	2	日本	12 (3)
上智	1	成城	3	東洋	22 (1)
東京理科	1	明治学院	4 (1)	駒澤	12
明治	9	芝浦工業	1	文教	7
立教	10	武蔵	6	その他の私立大学 225 (16)	
青山学院	2 (1)	獨協	15		
中央	3 (1)	國學院	6		
学習院	2	東京都市	1 (1)		

② クラブ活動実績について

本校には強化クラブとして、男子6クラブ（野球・サッカー・ラグビー・バスケットボール・バレーボール・卓球）、女子3クラブ（バスケットボール・バレーボール・卓球）を置いています。各クラブ共に全国大会出場を目標に、日々練習に励んでいます。今夏の全国高校総体（インターハイ）には、男女バスケットボール、男子バレーボール、女子卓球の4クラブが出場しました。

また、年末年始に行われた全校高校選抜大会（ウィンターカップ）に男子バスケットボール部が、全国高校選手権にサッカー一部が出場しました。両クラブ共に数々の熱戦を繰り広げ、男子バスケットボール部が全国ベスト16、サッカー一部が全国ベスト8という結果を残してくれました。今後も両クラブをはじめとする強化クラブの活躍を期待したいと思います。

③ 平成29年度高校入試結果について

平成28年度高校入試においては、募集定員360名を大きく上回る456名の入学生を迎えることができました。その反動が心配された平成29年度高校入試でしたが、昨年度を更に上回る477名（男子306名・女子169名）の入学生を迎えることとなり、マイナス予想を大きく裏切る嬉しい悲鳴となりました。学則定員400名を2年続けて上回る結果となった要因として、以下の通りいくつか想定される事項はありますが、明確な要因を特定することはできません。

- (1) これまでの本校の教育活動への評価（生活指導・進路実績・スポーツ実績など）
- (2) 在校生・保護者によるクチコミ。
- (3) 国・県による私学助成制度の充実。
- (4) 近隣公立高校の志願倍率の上昇。

(1)～(4)全ての要因の複合的な結果として、29年度入学生数の増加に至っているものと想定されますが、最も大きな要因は、極めて単純なことです。単願、併願共に受験者数の増加による最終的な結果であることは確実です。中学校や塾への地道な募集活動、学校説明会や個別相談会への参加を促すツールの作成やその告知など、とにかく一度本校へ直接足を運んでいただく機会を増やすことで志望校としての絞り込みの対象となり、その結果として受験者数の増加につながりました。受験者という分母が大きくなった結果として、併願の戻り率にあまり左右されることなく最終的な入学者数につながったことは間違いありません。今後、確実に募集定員を確保するためにも、日々の日常的な取り組みを継続しつつ、本校の認知度を高め、学校説明会等へ参加を促す募集活動を継続していきたいと考えます。今年度の好結果を一過性のものとして終わらせず、永続的な状況となるよう、教職員一同、一致団結して努力していく所存です。

系統	特進系			アタック		スポーツ系
	Sプラス	Sセレクト	Sアスリート	P ポジティブ	A アクティブ	
男子	9	44	12	52	70	男子のみ
女子	9	24	3	56	77	121
合計	18	68	15	108	147	
	101 (21.1%)			255 (53.4%)		121 (25.3%)

④ 財政の健全化

平成28年度事業計画には、以下の3項目について改善のための努力目標として掲げた。

- (1) クラス数の適正化（1クラス当たり人数を増やす）
- (2) スクールバス有料化ならびに路線の見直し
- (3) 奨学金額の適正化

(1) については、456名の入学生を迎えながらもクラス数を13クラスに抑えた結果、ほとんどのクラスで36～38名の在籍生徒数となり、課題の一部は解消されています。しかしながら、Sプラス、Sアスリートクラスにおいては入学生数が少ないために、一部バランスを欠く結果となっています。この点については、平成30年度より系統コースの再編を控え、その段階で解消できるものと想定しています。

(2) については、具体的な対応策を講じることはできませんでした。スクールバスの有料化については、バス運行委託代金の急上昇に伴い、利用料を徴収することによる生徒募集への影響が心配されます。また、近隣他校で有料化に踏み切った結果、予想していた程の効果が無く、逆に生徒募集面へのマイナス効果の声も聞こえてきます。現実的には、全面的な有料化よりも一部路線の廃止による効果の方が大きいと試算できるため、平成30年度入学生より路線縮小の告知を始めていきたいと考えています。縮小路線については、現在検討中です。

(3) については、スポーツ特待生に対する奨学金縮小は図れているものの、学力特待生については生徒募集上やむを得ない部分もあり、簡単に縮小を図れない現状があります。学力特待生の奨学金縮小を図った結果、特進クラス入学生が減る事態となった場合、3年後の進学実績に影響を与える場合もあり、慎重な対応が必要と考えます。

上記(1)～(3)の項目を解消することは、今後の本校の経営面において重要な要素となることは確実であることを踏まえ、より有効な方策を模索しつつ段階的に進めていきたいと考えています。

3. 財務の概況

(1) 概況

平成28年度資金収支の状況は、収入の柱である学生生徒等納付金収入が頭打ちの状況から若干の減少に転じ、他収入も手数料収入、寄付金収入などの増加は見られたが、全体としては減収を余儀なくされた。また、支出に目を向ければ、ものづくり研究センターの完成年度としての設備負担はあったものの、特殊要因を除けば全体的に経費面の圧縮が図られた。

学生募集の状況は、大学において平成28年度生の募集で定員割れとなり収入面への影響も懸念されるところだが、平成29年度生の募集では定員以上を確保し、また、高校における生徒募集が2年続けて募集定員を大幅に超える実績を示すなど、来期以降、資金収支の改善が期待される。

(2) 事業活動収支の状況

平成27年度会計年度より新規制定された決算書で、従来の消費収支計算書に対応するもの。収入で従来の帰属収入に対応する額で比較すると、前年対比15百万円の減少で4,788百万円、消費支出は前年対比56百万円増加となり4,509百万円、帰属収支差額は350百万円から279百万円（基本金組入前当年度収支差額と決算上表記）への減少となる。

主要科目での前年度比較は以下のとおり

	H27年度	H28年度	増減
学生生徒等納付金	3,506	3,421	△ 85
補助金(施設設備含む)	924	756	△ 168
人件費	2,606	2,560	△ 46
（退職金）	(257)	(262)	(5)
教育研究経費	1,456	1,485	29
（内減価償却費）	(442)	(494)	(52)

連続消費収支の状況 ～平成26年度まで

(単位 百万円)

科 目	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
帰属収入合計 (A)	4,232	4,320	4,351	4,867	4,986
（内 学生生徒等納付金）	(3,123)	(3,346)	(3,359)	(3,520)	(3,531)
（内 補助金）	(811)	(660)	(761)	(978)	(1,046)
基本金組入額	278	267	180	558	628
消費収入合計 (B)	3,954	4,053	4,171	4,309	4,358
消費支出合計 (C)	4,259	4,198	4,198	4,515	4,471
（内 人件費）	(2,503)	(2,502)	(2,417)	(2,655)	(2,622)
（内 教育研究経費）	(1,276)	(1,264)	(1,322)	(1,366)	(1,415)
消費収支差額 (B)-(C)	△305	△145	△27	△206	△ 113
帰属収支差額 (A)-(C)	△27	122	153	352	515

連続事業活動収支の状況 H27年度～

科目名	平成27年度	平成28年度	増減
教育活動収入 (A)	4,530	4,487	△ 43
(内 学生生徒等納付金)	(3,506)	(3,421)	(△ 85)
(内 補助金)	(673)	(721)	(48)
(その他)	(351)	(345)	(△ 6)
教育活動支出 (B)	4,431	4,495	64
(内 人件費)	(2,606)	(2,560)	(△ 46)
(内 教育研究経費)	(1,456)	(1,485)	(△ 29)
教育活動収支差額(A)-(B)	99	△ 8	(△ 107)
教育活動外収入 (C)	5	4	(△ 1)
教育活動外支出 (D)	15	13	(△ 2)
教育活動外収支差額(C)-(D)	△ 10	△ 9	(1)
経常収支差額(決算)	89	△ 17	(△ 106)
特別収入 (E)	268	297	31
特別支出 (F)	5	1	(△ 4)
特別収支差額(E)-(F)	262	296	34
基本金組入前当年度収支差額	350	279	(△ 53)

(3) 資産負債の状況

今年度の資産負債の状況は、総資産で79百万円増加、総負債は200百万円の減少となり、純資産で279百万円の増加となった。内容的には設備投資と借入金の返済が大きな要因である。

固定資産は、有形固定資産で投資額970百万円(現物寄付を含む)に対し、減価償却・除却等で554百万円の実績で417百万円の増加、特定資産、その他の固定資産の増減と併せて、固定資産合計では17,001百万円の残高となる。流動資産は2,545百万円から2,118百万円に減少、現金預金及び未収入金の減少が殆どを占めている。

負債勘定は、固定負債で長期借入金の減少221百万円の減少を中心に他の増減と合わせ208百万円減少、流動負債は8百万円の増加で1,320百万円、負債合計は3,054百万円となった。

純資産の部は16,065百万円と前年対比279百万円増加したが、うち繰越収支差額は666百万円支出超過が増加し9,966百万円となり翌年度へ繰り越すこととなった。

(4) 連続貸借対照表の状況

(単位 百万円)

科 目	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
固 定 資 産	14,963	15,189	15,659	16,495	17,001
流 動 資 産	3,006	3,037	2,829	2,545	2,118
資産の部合計	17,969	18,226	18,488	19,040	19,119

固 定 負 債	2,117	1,930	1,718	1,942	1,734
流 動 負 債	1,283	1,376	1,334	1,312	1,320
負債の部合計	3,400	3,306	3,052	3,255	3,054
純資産の部合計	14,568	14,920	15,435	15,786	16,065
(内 翌年度繰越収支差額)	(△9,426)	(△9,632)	(△9,347)	(△9,300)	(△9,969)
負債及び純資産の部合計	17,969	18,226	18,488	19,040	19,119